



南林間小だより

大和市南林間9-3-2

☎ 275-3141



6月号



さわやかな日差しが続いてきたので、ヒマワリの種まきをしました。子どもたちが毎日水やりをして、芽が出てきた様子を温かく見守ってくれています。夏には、大きな黄色い花を咲かせてくれることを楽しみにしています。

一方で、気温の上昇に伴って、マスクを着けている内側では、肌が蒸れたり、かぶれたり…、さらには、心拍や呼吸への負担や熱中症のリスクが心配されてきました。学校では、顔を近づけて話をしないという指導をしたうえで、登下校時や体育の時間はマスクを外すことを進めてまいります。また、校内では換気とともに、エアコンを適切に使用し、引き続き感染症対策に努めてまいります。

ただ、長い間着けてきたマスクを外すことに不安を感じる子どもも多いと思います。一人ひとりの気持ちに寄り添い、一緒に考えていきたいと思います。マスクを着けている子ども、外している子ども、それぞれが相手に対して思いやりを持ち、お互いの心に自分の気持ちを届け合うことで、コロナに対する不安や、熱中症に対する不安、周囲の目からの不安が取り除かれることを願っています。



コロナが収束したわけではなく、マスクを外した素顔の笑顔がたくさん見られるようになるには、まだ時間がかかりそうですが、子どもたちが安心して、楽しく過ごすことができるように努めていきたいと考えています。

(校長 板坂 和明)



朝、正門前の道に立って子どもたちの登校を見守っていますが、「おはようございます。」と挨拶をする子どもたちがだんだんと増えてきました。子どもたちと目を合わせて挨拶をするようにしていますが、子どもたちが挨拶をしてくれると、とてもうれしくなり、心が温かくなってきます。

「挨拶とは何か、それは『心を開いて相手に迫る』ということです。鈴木健二（元NHKアナウンサー）」という言葉を目にしました。挨拶を通して、相手とのコミュニケーションが広がり、相手の理解が進み、自他を尊重する気持ちが芽生えてくるのだと思います。学校でも挨拶は大切なものとして指導しております。ご家庭でもご指導をお願いします。

(教頭 大谷 幸司)